

# 教育未来創造会議 第6回議事録

教育未来創造会議担当室

# 第6回教育未来創造会議

## 議事次第

日時：令和5年4月27日（木）15時45分～16時25分

場所：総理官邸2階大ホール

1. 開会
2. 第二次提言案について
3. 閉会

（配付資料）

- 資料1-1 「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ〈J-MIRAI〉」  
（第二次提言）案概要
- 資料1-2 未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ（第二次提言）  
（案）
- 資料2 参考資料集
- 資料3 参考データ集
- 資料4 有識者構成員提出資料

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 ただいまから、第6回「教育未来創造会議」を開催いたします。

この会議の司会を務めさせていただきます、文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣の永岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、まず第二次提言案につきまして皆様の御承認をいただき、その後、構成員の皆様から、これまでの議論の御感想や政府への期待等について御意見をいただきたいと思っております。

それでは、議事に入ります。第二次提言案につきましては、4月4日に開催いたしましたワーキング・グループにおいて座長一任となっております。

承認に先立ちまして、ワーキング・グループの清家座長より第二次提言案の説明をお願いしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○清家構成員 かしこまりました。

ワーキング・グループの座長として、第二次提言案について資料1-1の概要を基に御説明をいたします。

第二次提言案は、この概要の1ページのとおり、「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ」と題し、略称を「J-MIRAI」としております。

まず、今後のグローバル社会を見据えた人への投資の在り方として、留学生交流について、量を重視するこれまでの視点に加え、日本人学生の海外派遣の拡大や有望な留学生の受入れを進めるために、より質の向上を図る視点も重視することとしております。

次に、この概要の1ページ目の右側、今後の方向性として、日本人学生の派遣について、中長期留学者の数や割合の向上、特に大学院生の学位取得を推進すること。そして、外国人留学生の受入れについて、優秀な外国人留学生の戦略的受入れを推進し、受入れ地域の多様化を図ること。さらに、海外派遣後の日本人留学生の就職円滑化や外国人留学生の卒業後の定着を促進すること等をお示ししております。

次に、この概要の2ページを開けていただきますと、2ページ目では2033年までの目標として、日本人学生の海外派遣者数50万人、外国人留学生の受入れ数40万人、外国人留学生の卒業後の国内就職率60%等を掲げております。

さらに、3ページ目を開けていただきますと、3ページ目以降に具体的方策をまとめております。

そのうちの1ポツ、コロナ後の新たな留学生派遣・受入れ方策については、(1)として、日本人学生の派遣方策として給付型奨学金の着実な拡充や官民一体での経済的支援の充実、(2)として、外国人留学生の受入れ方策として優秀な外国人留学生の早期からの獲得強化に向けたプログラム構築や国費留学生制度の地域分野重点化などの見直し、そして、(3)として、国際交流の推進としてアジア高校生架け橋プロジェクトの充実強化などについてお示しをいたしております。

4 ページ目を開けていただきますと、4 ページ目の2 ポツでございますが、留学生の卒業後の活躍に向けた環境整備につきましては、通年・秋採用、インターンシップ等による多様な選考機会の提供を通じた日本人学生の就職円滑化に向けた環境整備、外国人留学生を受け入れる企業への伴走型支援や関連する在留資格の見直しを通じた高度外国人材の定着率向上などについてお示ししております。

最後に、3 ポツ、教育の国際化の推進につきましては、徹底した国際化やグローバル人材育成に大学が継続的に取り組むような環境整備、国際化を先導する大学を認定する制度の創設、国際的な中等教育機関の整備推進・運営支援などについて提言をしております。

私からは以上でございます。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 清家座長、ありがとうございます。

それでは、構成員の皆様にはあらかじめ本案を御確認いただいておりますので、資料1-2のとおり、第二次提言を承認いただけたものとさせていただければと存じますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 ありがとうございます。それでは、そのように取扱いをさせていただきます。

構成員の皆様方におかれましては、これまで大変貴重な御意見をいただきましたこと、本当に心から御協力いただきましたことに対して感謝を申し上げます。ありがとうございます。

続きまして、有識者の皆様から御意見をいただきます。これまでの議論の御感想や政府への期待等につきまして、御意見のある方は挙手をお願いいたします。オンラインで御参加の皆様は挙手ボタンを押していただければと思いますので、よろしく願い申し上げます。

大野構成員、どうぞよろしく願いいたします。

○大野構成員 ありがとうございます。

重要な提言を提出することができました。事務局、関係各位の御尽力に深く感謝いたします。

グローバル社会の基盤となる人への投資は、私たちの未来を築くために不可欠でありまして、社会全体が受益者であると考えています。特に留学を通じたグローバルな交流の拡大は、若者自身の成長や人口減少の日本社会における人的資本の充実という点で極めて重要だと考えます。その観点から、留学への経済的支援の充実や留学生に対する制度の柔軟化が盛り込まれたことは、すばらしいと思います。

今後の工程表の作成に当たりましては、実施主体を明確にし、具体的方策、取組を明記することに加えて、必要となる人的・物的リソース、そして、制度的な環境の整備に対し、国主導で戦略的に、財政的な後押しも含めて、進めるということが重要だと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

最後に、清家座長をはじめとして、これまで一緒に議論してきた構成員の皆様、そして、関係省庁、事務局の皆様方の御尽力に改めて感謝を申し上げて、私からの発言とさせていただきます。ありがとうございます。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 ありがとうございます。

ほかに御意見はございますでしょうか。

高橋構成員、よろしく願いいたします。

○高橋構成員 皆様の御意見を取り入れて提言をまとめてくださった事務局の皆様、敬意と感謝を表したいと思います。ありがとうございました。

その上で、提言案にはまだ日本語としてこなれていない箇所、あるいは字句を修正したほうがよい箇所が残っていますので、これから情報発信される際には、分かりやすい文章に整えて発出していただければと思います。

今日、配付されました提言の26ページの最後に、国際学会、そして、イベントの誘致の促進について書かれています。国際学会について言及している箇所は、提言の中でこの部分だけです。日本はスポーツの大会の誘致にはとても熱心ですが、国際学会の誘致についてはそうではありません。実際に、日本では国際学会を誘致することがとても困難です。一つの理由は、大学にも、そして、大学の教職員にも余裕がないからですが、国際学会を日本で開催できれば、日本の大学を多くの国々の研究者や教員の集団に一遍に御覧いただくことができますので、留学生の交流の促進にも資すると思います。日本の大学の国際化を推進する意味でも、国際学会や学術的なイベントを支援する取組が必要だと考えますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 貴重な御意見をありがとうございました。

それでは、湯崎構成員、挙手されております。どうぞよろしく願いいたします。

○湯崎構成員 ありがとうございます。

まずは、この第二次提言案の取りまとめに当たりましては、構成員の皆様と本当に有意義な議論をさせていただいたことに感謝を申し上げたいと思いますし、また、事務局の皆様、関係の皆様には我々の本当に多様な意見を提言案としてまとめていただいたことに御礼を申し上げたいと思います。

それで、以前の会議でも発言させていただいたのですけれども、本県におきましては、今後、否応なくグローバル化が進むという中において、新たな価値を創造する鍵というのは多様性であると認識をしております。それに基づいて、乳幼児期から大学・社会人まで一貫した人材育成の取組を進めているのですけれども、具体的には地域の成長や発展を支えるといった人材から、世界を舞台に活躍する人材まで、多様で厚みのある人材層を形成するということであるとか、あるいは全ての人材が国際感覚を持つということが必要不可欠だと考えて取り組んでいるところです。

本提言案も、厚みのある多様な人材を育成して、また、確保して、多様性と包摂性のあ

る持続可能な社会を構築するということによって、我が国のさらなる成長を促すことなどが必要不可欠だという考えに基づいていると思っておりますし、今後の方向性や具体的な取組、それから、指標に至るまで明確に整理されていまして、構成員の一人として高く評価できるものと思っております。

今後、これを実行していくということが非常に大事だと思っております、工程表の策定に当たりましては、具体的なモデルイメージを提示していくなど、この目的であるとか施策の内容、それから、施策のターゲット、その実行主体などを明確にした工程表の策定を進めていただきたいと思いますし、そのフォローアップも適切に行って、省庁間で連携をして、また、ものによっては地方、地域と連携をする必要があると思っておりますので、政府一丸となって確実な実行につなげていただきたいと思いますと思っておりますのでございます。

以上です。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 大変ありがとうございました。

それでは、次に虎山構成員、よろしくお願いいたします。

○虎山構成員 虎山です。ありがとうございます。

このような会議に参加させていただき、どうもありがとうございました。

あと、事務局の皆様、お疲れさまでした。

今回、留学により入ってくる方々、また、留学に行く方という教育面から国際競争力を高めるというようなことを施策にするということを考えてきたわけですけれども、人的交流の在り方、教育の在り方、そして、その後の働き方など、様々な面からやはり対策が必要なのだということで、今後の予算の配分なども非常に重要になってくると思います。引き続きこの辺りはよろしくお願いいたします。

私は自分が小さいときから海外に触れるような機会がありましたので、やはりマイノリティーに身を置く、これはこの国ではとても難しいことですので、マイノリティーに身を置いてみる、修羅場を体験するというような機会をこのようなプログラムを通じて提供していく機会をつくっていくことができたのだと感じており、とても意義があることだと感じています。

構成員の皆さん、本当にいろいろとありがとうございました。私も大変勉強になった経験になりました。ありがとうございました。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 大変ありがとうございました。

それでは、次に廣津留構成員、よろしくお願いいたします。

○廣津留構成員 ありがとうございます。

まずはこうして提言を大変分かりやすくまとめてくださったこと、細かい文言までつぶさに取り入れてくださったことに感謝を申し上げます。

これがスタートラインかと思えます。具体化に向け、私からは最後に3つの観点より強調したい点についてお願いをしたいと思います。

一つは、地方の高校から学部で海外に行った者の視点として、海外の教育情報が地域や

家庭環境に関係なく行き届き、知的好奇心にあふれた人皆が海外に行けるような環境をつくっていただきたいと思います。学生が憧れるような、世界で活躍したり、圧倒的な商品、サービスを提供できるような日本人ロールモデルをどんどん輩出していただきたいなと思います。

そして、今、大学で教える者としての視点としては、学生時代にやはり異なる言語で世界の人材と渡り合えることは大きな刺激で、世界に出るきっかけになっていることを実際にこの目で学生と触れ合っていて感じています。留学生を受け入れることというのは、自国の学生にとってプラスになると思います。高度なスキルを持った留学生が日本にどうしても来たくなくなるような、定着するような魅力のある環境設計を進めていただきたいなと思います。

最後に、音楽家としての視点なのですが、テクノロジーに頼ってしまうこの世界で、海外との交流、外交において、この時代にますます重要になると思っているのは相手の考えを押し量る力です。人と共同で0から1を作り上げるこのアートというのは、クリエイティブの創造力だけではなく、考えるほうの創造力も強くすると思っています。そして、観光が盛んな国というのは、町中に音楽、演劇、ダンスなどのエンターテインメントがあふれています。芸術への投資、芸術を志す方への投資、世界で学びたいと思っている方や日本に来て日本の芸を学びたいと思っている方への投資をぜひぜひ進めていただきたいと思っています。

短い期間ではありましたが、御一緒させていただいた皆様、本当にありがとうございました。

私からは以上です。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 大変ありがとうございました。

ほかには皆様方、御意見はございませんでしょうか。

それでは、東原構成員、どうぞよろしくお願いたします。

○東原構成員 今回、構成員として参加させていただきまして、ありがとうございました。非常によくまとまっていると思います。特に2033年に向けた定量的な数字目標が掲げられたというのは、非常に大きなポイントだと思います。そういう意味で、今後着実にこれを実行していくという工程表について、きちりとPDCAを回しながら、数字と目標を守っていくということは非常に重要です。

私は企業サイドから参加させていただきまして、あと10年後の社会を見たときに、やはり市場はグローバルが中心となる。そういったグローバルな市場の中で戦っていくには、やはり異文化を理解して、共感力を持ってビジネスを展開できるというのが非常に重要です。ですから、若い世代から異文化を知ることが非常に重要でありまして、ぜひそこを推進していただければと思います。

特に親の所得の格差が子供の教育に影響するということを、何としても防いでいただくような施策をつくっていただいて、ぜひ子供たちが平等に幅広く海外、異文化に触れられ

るようにしていただきたいというのが一点と、もう一つ、外国の方の日本への定着率を上げるためには、日本における日本語教育や学習の支援、あるいは家族も帯同できるような日本でのサポートを含めたことを考えていただければと思います。

私からは以上です。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 大変ありがとうございました。

ほかに。

それでは、多構成員、そして、池田構成員、それから、明石構成員、よろしくお願いたします。

○多構成員 ありがとうございます。

このたび、未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ第二次提言案をお示しいただきました。この題目に非常にふさわしい今後の方向性と具体的方策が、これまでの本会議及びワーキング・グループの有意義な討議というものを踏まえて、網羅的に記されていると感じております。

取りまとめに御尽力をいただきました全ての皆様方をはじめ、また、構成員の皆様にも改めて御礼を申し上げたいと思います。

特に日々外国人留学生と接しております者といたしましては、新たな在留資格制度や認定制度を創設していただけるということは、日本社会での活躍を胸に抱いて留学を志す優秀な外国人にとって大きな支えになるものでありまして、重ねて感謝を申し上げる次第であります。

一方で、今後、急速に生産年齢人口が減少していくこの国の将来を考えて、外国人の力を借りるという点におきましては、日本の国力と外国人の希望というものがマッチングしているかということ熟慮する。それが両者を真のイコールパートナーに導くために必要なことではないかと私は考える次第でございます。

こうした視点にも十分に御理解をいただきまして、この第二次提言案に沿ってそれぞれの方策が実行されていく中で、まさに未来を創造する若者が育まれていくことに大きな期待をしているところでございます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 どうもありがとうございます。

それでは、お願いたします。

○池田構成員 池田でございます。ありがとうございます。

まずは、最初にこの提言の議論の中で、多くの意見、多岐にわたるトピックが出ましたけれども、取り込んでいただき、どうもありがとうございました。

この第二次提言がつくり上げられる期間というのは、まさにポストコロナ禍期への変化を私たちが経験していく期間と並行していたと思います。当初、発足の11月にはまだちゅうちょしていたかもしれないような思い切った人の動きですとか、国内外のつながり方、こういうことが今はしっかりとその取組を推奨できるということは、国際教育に関わる者

として非常にうれしく思っております。

一方で、この教育界にとってはコロナ禍で学んだことは非常に多いと考えています。例えば教育をDXすることがいかに大事なのか。それから、オンラインを活用した学びを深化させることは大きな可能性があるということです。これは今後も忘れたいですし、この提言でも言及されております。

本提言は、日本人学生も外国人留学生もどちらの人材像も妥協しない点がとてもいいと私は思っております。Society5.0を担っていく多様な背景、価値観を持ち寄って社会をリードする。こういった人材に国境はございません。この視点というのは、Z世代と言われるこれからの学生層に強く響くものだと大学人として思っておりますし、盛大にプロモーションしていきたいと思っております。

最後に、教育機関在籍中の教育にとどまらない本提言にとっては、大学にとって多様な業界と越境して協力する大事な視点を示唆していると思います。この点、私にとってはよい再考の機会となりました。引き続き尽力してまいりたいと思います。ありがとうございました。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 大変ありがとうございます。

それでは、よろしく申し上げます。

○明石構成員 まず、本提言に至るまでの関係各位の御尽力に改めて敬意を表します。ありがとうございました。

日頃から大学は、留学生の受入れと送り出し、教育の国際化について、それをどう進めていくか自問自答し続けています。そのような折に、今回、政府の見解、それから識者の意見、それを踏まえての具体的な指針を得たということは非常に有意義なことだったと振り返っております。

先ほど実行主体というお話もありましたけれども、今後は提言の理念、計画、目標を現場にどう落とし込んでいくのかというのが非常に重要になります。つまり、教育に関わる当事者たちが本提言の中身を意識的に内面化していくプロセスが不可欠です。あくまでも現場の感覚で申し上げますと、これは時間もかかりますでしょうし、労力もかかります。ストレスもかかってくるわけです。ただ、日本の教育というものを国際社会につなげていく、拓いていくということは、この国の発展のみならず、国際公共的な観点からも非常に価値があることであり、その価値を増進させることは、避けては通れない挑戦であり、課題だと思っています。本提言の実現を切に祈っており、一介の大学教員としてもそのように努めてまいります。

関係各位に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 大変ありがとうございました。

それでは、平原構成員、どうぞよろしくお願いたします。

○平原構成員 まず、関係者の皆様、そして、構成員の皆様、ここに至るまで本当にありがとうございました。

私からは、第三次提言があるのであれば、そちらに向けて1つ、2つコメントをさせていただければなと思っております。

まず、今回、教育未来創造会議というところで、学生さんたち、そして、留学生の皆様のお話をされているかと思えます。ただ、この場に学生の皆さんも留学生の皆さんもいないという現状がありますので、その当事者の方々の声をしっかりと聞いて、対話して、提言をつくっていく。これが必要かと思っておりますので、もし第三次提言がある場合は、そちらも御検討いただけますと幸いです。

そして、もう一つ、この2週間で私が8歳から20歳まで留学していたときに会った仲間たち、7か国の皆さんにずっと観光のアテンドをしていたのですが、そのときに何で日本に来たのと聞いたときに、皆さん言うのです。日本の文化が美しいと。日本の人が美しいと。だからこそ、この日本の文化、そして、日本の人を伝えられるような人材をよく増やしていくことです。そのためにも、例えば第三次提言で第二外国語を導入して、英語のみならずほかの言語でも導入して、それを必須化するようなことも検討してみたいかがかなと思いました。

私からは以上となります。皆さん、ありがとうございました。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 大変ありがとうございました。

それでは、村上構成員、お願いいたします。申し訳ございません。時間がございませんので、手短にお願いいたします。

○村上構成員 承知いたしました。

第二次提言案がまとまり、関係の方々の御尽力に心より感謝申し上げます。

1990年代の後半から世界的な人材獲得競争が行われてきましたが、日本で活躍する外国人は依然として少ない状況です。また、海外直接投資の増加に伴い、企業大転勤により海外で働く日本人は増えましたが、組織の枠を超えて国際的なネットワークを持ち、ビジネス、科学などの分野で活躍する日本人はまだ少ないように見受けられます。

これまでも国際的な人的交流の活性化や多様な人材の活躍促進のために、個々の企業、大学、省庁等で個別の取組は行われてきましたが、流れを大きく変えるには至らなかったと思います。このような状況を抜本的に変えていくためには、国際的な視野と多様な人と協働できる様々な能力を持った人が日本社会の中に増えていくことが不可欠であり、そのための大掛かりな政策や方向性の提示が待たれていたところであります。

したがって、今回、コロナ禍で人の流れが一旦リセットされたのを機会に、未来を創造する若者の留学促進イニシアティブが出されたことは、大きな意義があると思います。今後は、本提言を社会に周知し、国、高等教育機関、地方、産業界が連携して目標を達成できるよう、御尽力くださいますようお願い申し上げます。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 ありがとうございました。

それでは、次に齋木構成員、手短にお願いいたします。

○齋木構成員 齋木でございます。どうもありがとうございます。

まず、今回御尽力いただきました清家ワーキング・グループ座長、御関係の諸先生及び事務局の方々に心から御礼申し上げます。大変網羅的な内容であり、また、明確な方針を指し示す力強い提言になっていると考えます。

その上で、手短に3点申し上げます。

1点目ですが、先日も触れましたとおり、提言は実行されてこそ意味があります。進捗状況をしっかり検証し、着実に実行するようぜひお願いいたします。

2点目は、いろいろな施策が打ち出されておりますが、そうした施策がより効果的・効率的に実を結ぶためには、関係部署や関係者間の連携が極めて重要であるという点です。情報共有は言うに及ばず、協議の場を設けることを含め、連携強化に意を用いていただくようお願いいたします。

最後、3点目です。この提言は、留学生の派遣・受入れ、留学生の卒業後の活躍のための環境整備及び教育の国際化に係るものですが、ある意味で、こうした事柄は手段でございます。より重要なのは、手段ではなくその先にあるものです。それはすなわち、目的は日本の国際競争力の強化であり、国際秩序構築への積極的参画でございます。この目的、問題意識を常に念頭に置いておきたいと思っております。その上で、この提言の実現に向けて私もしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

どうもありがとうございました。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 ありがとうございます。

それでは、最後になりますが、座長としてしっかりとお仕事をさせていただきました清家構成員、よろしくようお願いいたします。

○清家構成員 ありがとうございます。

それでは、短く一言だけ申し上げます。

提言の取りまとめに当たって御尽力いただきました有識者委員の皆様、事務局の皆様にも改めて御礼を申し上げますとともに、政府におかれましては、本提言を具現化するために、必要な施策を着実に進めていただきますようお願い申し上げます。

どうもありがとうございます。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 大変ありがとうございました。

続きまして、閣僚から御発言をいただきます。

まず、鈴木財務大臣、よろしくようお願いいたします。

○鈴木財務大臣 我が国の未来を支える人材の育成は重要な課題であります。人材育成の質の向上に向けて、留学生を通じた国内外の相互交流を促進するためには、情報不足や語学力不足、留年・就職への不安等によってももたらされる若者の内向き志向などの構造的な課題の解決や、大学が自ら留学生受入れ拡大に向けて戦略的に魅力を高めていくような仕組みづくりが重要です。

本日取りまとめられた提言の実現に向けて、今後、関係省庁において具体的な方策が検討されることと思っておりますが、これまでの施策の効果分析も踏まえて、施策にメリハリをつ

けながら、限られた予算の中で効果的に目標が達成できますよう、将来世代のためになる改革を進めてまいりたいと思います。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 それでは、次に齋藤法務大臣、お願いいたします。

○齋藤法務大臣 多様性と包摂性のある持続可能な社会を構築していく上で、外国人留学生が高度外国人材などとして我が国に定着をしていくことは非常に重要であると考えております。

本年2月に公表いたしました特別高度人材制度及び未来創造人材制度につきましては、4月21日より運用を開始しております。また、留学生の卒業後の就職促進に向けて、例えば一定の要件を満たして認定された専門学校を修了した留学生につきましては、技術・人文知識・国際業務への在留資格に変更する場合において、専攻科目と従事しようとする業務の関連性を柔軟に判断するなど、在留資格の運用の見直しを図ってまいります。

法務省といたしましては、本提言を踏まえ、今後とも適切に対応してまいります。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 それでは、次に中谷経済産業副大臣、お願いいたします。

○中谷経済産業副大臣 経済産業省でございます。

イノベーションを起こすには、多様性、ダイバーシティが必要です。そのために、留学等の様々な経験を若いうちから積んだ人材や、外国人留学生等の多様な人材に活躍していただける社会をつくることが重要と考えます。

こうした観点から、経済産業省としても意欲を持って海外に飛び立つ日本人留学生がスケジュールの問題で就職機会を失うことがないように、通年採用等、柔軟な採用体系の構築に取り組んでいただきたい旨を引き続き経済界にも呼びかけてまいりたいと思っております。

また、外国人留学生については、日本各地で産学官のコンソーシアムを設立し、地元企業への就職と定着率の向上のための体制を整備するとともに、新たに創設された特別高度人材制度等の在留資格の活用を促していきたいと思っております。

以上です。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 次に、秋元外務大臣政務官、お願いします。

○秋本外務大臣政務官 本会議で取りまとめられる第二次提言では、留学生の派遣・受入れを通じた親日派・知日派の育成や外交的意義にも焦点が当てられており、本提言の実施は我が国の外交基盤の強化にもつながると認識しております。

外務省といたしましても、特に今回の提言に含められている40万人の外国人留学生の受入れ、そして、その定着に関する目標の達成に貢献してまいります。

具体的には、日本文化を含む我が国の多様な魅力を発信し、海外における日本語教育の充実に注力してまいります。

また、在外公館において、留学広報や相談対応、国費留学生の募集選考とともに、現地

で活躍する元留学生も活用した留学生交流関係事業を実施してまいります。

以上です。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 それでは、次に畦元厚生労働大臣政務官、お願いします。

○畦元厚生労働大臣政務官 厚生労働省として発言いたします。

未来を創造する若者の留学促進イニシアティブがまとめられ、外国人留学生の受入れ等に係る新たな指標が示されました。卒業後に日本国内で定着、活躍いただくには、その環境整備がより一層重要になると考えております。厚生労働省においては、外国人留学生の国内就職に向け、ハローワークにおける多言語対応を含めた就職に関する相談支援機能・拠点の強化、企業への受入れ・定着促進に向けた事業主向けセミナー等の開催のほか、関係省庁と連携した通年採用などによる多様な選考機会の導入の働きかけなどを行い、未来を創造する若者の活躍に向け、企業の円滑な就職と定着の促進を進めてまいります。

以上です。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 それでは、私からも発言をさせていただきます。

有識者の皆様方におかれましては、コロナ後のグローバル社会を見据えた人への投資につきまして、本当に大きなテーマの下でこれまで精力的に御議論をいただきまして、第二次提言を取りまとめていただきました。改めて、これまでの御尽力に感謝申し上げます。

未来を創造する若者が夢や希望を持って安心して海外留学に挑戦することができるよう、環境整備を図っていくことをはじめとして、私も提言の着実な実行に努めてまいります。

また、関係省庁におかれましても、人への投資を通じて我が国のさらなる成長を促していくため、今回の提言の実現に向けて、御協力のほど、よろしく申し上げます。

それでは、ここでプレスが入室いたします。

(報道関係者入室)

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 それでは、総理から締めくくりの発言をいただきます。よろしく申し上げます。

○岸田内閣総理大臣 本日は、教育未来創造会議の第二次提言として「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ」、略称「J-MIRAI」の取りまとめを行いました。有識者の皆様方の御尽力に心より感謝を申し上げます。

新しい資本主義を実現するためには、人への投資を一層進め、世界最先端の分野で活躍する高度専門人材を育成・確保するとともに、多様性と包摂性のある持続可能な社会を構築することが必要不可欠です。

このため、政府として、2033年までに日本人学生の海外留学者数50万人、外国人留学生の受入れ数40万人の実現を目指すこととし、この実現に向けて、日本人学生の中長期の海外派遣の拡大、有望な外国人留学生の受入れを進めるための環境整備、中学・高校段階からの国際交流の推進、在留資格の見直しや企業への就職円滑化の促進、国内大学等の国際

化や外国人材への魅力的な教育環境整備等に取り組みます。

特に、我が国の未来を担う若者が留学を通じて成長し、活躍することは、社会を変革するための鍵となります。そのため、日本人留学生の中長期の海外派遣を中心に、優秀な日本人学生の海外派遣を大幅に拡大する構造的・抜本的な方策を実施するとともに、日本人留学生への経済的支援も充実してまいります。

この提言を反映し、富山・金沢教育大臣会合、そして、広島サミットを通じて、G7メンバーとの間で相互の海外留学を推進してまいります。

永岡大臣を中心として、施策の工程表を夏頃までに作成するなど、政策実施プロセスを明らかにした上で、これを実現するための施策パッケージを速やかに取りまとめ、実施状況のフォローアップを行い、J-MIRAI計画を着実に実行するようお願いをいたします。

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 ありがとうございます。

プレスは退室をお願いいたします。

(報道関係者退室)

○永岡文部科学大臣兼教育未来創造担当大臣 以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。

改めまして、皆様の御協力に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。